道教委と校長会、教頭会との意見交換会

1　日時
令和５年（2023 年）８月７日（月）　14:00～15:00

2　場所
北海道第二水産ビル　４Ｆ会議室

3　テーマ
教員の新たな研修制度による教員の資質向上と学校経営について

4　出席者
（１）　北海道小学校長会
森田会長、遠藤副会長、吉﨑副会長、谷口副会長、松本副会長、齋藤副会長、徳田副会長、末原事務局長、西村事務局次長、丹野事務局次長、田邊会計理事、渡辺地区理事（経営部長）、近藤地区理事（対策部長）、村上経営部副部長、稲上研修部副部長、下山対策部副部長、佐々木情報部副部長
（２）　北海道中学校長会
森田会長、村上副会長、長谷川副会長、盛永副会長、徳増副会長、三浦事務局長、吉本事務局次長、河村事務局次長、伊藤会計理事、小森地区理事（経営部部長）、工藤地区理事（対策部部長）、細谷地区理事（情報部部長）、野口経営部副部長、坂本対策部副部長、山田情報部副部長、鏡情報部幹事
（３）　北海道公立学校教頭会
野田会長、高橋副会長、奥平副会長、酒井副会長、鹿野副会長、佐藤副会長、照井事務局長、鶴羽事務局次長
（４）　北海道教育委員会
倉本教育長、北村教育部長、山本学校教育監、西口指導監、伊賀総務政策局長、川端学校教育局長、堀籠特別支援教育担当局長、伊藤生徒指導・学校安全担当局長、相川 ICT 教育推進局長、谷垣教職員局長、遠藤義務教育課長、松橋教職員育成課長

○遠藤義務教育課長
ご案内の時間よりも若干早いですけれども、皆様おそろいです。
ただいまから、道教委と校長会・教頭会との意見交換会を開催いたします。まず初めに、各会の会長の皆様、三名をご紹介させていただき、その後、道教委出席者を紹介いたします。意見交換の時間を少しでも長くとろうと考えておりますので、着席のままお願いいたした

いと思います。
　北海道小学校長会、森田智也会長です。
　続きまして、北海道中学校校長会、森田聖吾会長です。
　続きまして、北海道公立学校教頭会、野田隆之会長です。
　続きまして、道教委の出席者を紹介いたします。
　倉本教育長です。
　北村教育部長です。
　山本学校教育監です。
　西口教育指導監です。
　川端学校教育局長です。
　堀籠特別支援教育担当局長です。
　伊藤生徒指導・学校安全担当局長です。
　相川ＩＣＴ教育推進局長です。
　谷垣教職員局長です。
　続きまして、意見交換会について説明いたします。
　本日は、「教員の新たな研修制度による教員の資質向上と学校経営について」をテーマとし、現状と課題などについて情報提供いただき、随時質疑応答や意見交換を行ってまいりたいと思っております。
　進行は川端学校教育局長でございます。川端局長から発言のお願いがあったり、ご意見があったりする場合には、運営者がマイクをお渡ししますので、ご発言をお願いいたします。意見交換終了の目安の時間ですが、14 時 55 分頃と考えてございます。その後、教育長からの挨拶、そして終了という流れとなります。それでは、川端局長お願いします。
○川端学校教育局長
　改めまして皆さんこんにちは。学校教育局長の川端です。進行をさせていただきます。この週末は、特に東北地方が大雨で交通ダイヤが乱れていたり、また、ずっと暑い中ではありますが、全道各地からお集まりいただきまして本当にありがとうございます。名簿を見たり、こうしてお顔を拝見しますと、私もいろいろな場面でお世話になった校長先生がたくさんいらして、とても嬉しい気持ちになっています。今日はどうぞよろしくお願いいたします。
　今日は「教員の新たな研修制度による資質向上と経営について」というテーマでご意見をいただこうと思っています。今年度から新たな研修制度がスタートしました。4 月の校長会総会にお招きいただきまして、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励について、まずは先生達一人一人と丁寧に対応するところからスタートさせてくださいとお願いをしたところです。
　1 学期中に、校長先生は先生一人一人との面談を終えたところだと思いますので、まずは、その中でお気づきになられたことや、難しさも含めてお話をいただきまして、後半は校長としてどのように、教員の資質能力向上に取り組んでいくか、そういう機会や仕組みをどう構

築していくかなど、学校経営の視点から取り組んでおられることや、今後取り組もうとしていることなどについて、私ども道教委や市町村等への要望等も含めてお話しいただければと思います。それでは早速、新たな研修制度がスタートしての気づきや課題などについて、小学校長会の森田校長先生に口火を切っていただこうと思います。よろしくお願いいたします。

○北海道小学校長会　森田会長

本日はどうぞよろしくお願いいたします。北海道小学校長会の森田でございます。大変お世話になっております。座らせていただきます。本日、この会議を無事に迎えられたことを非常に嬉しく思っております。また、格別のご配慮をいただいていることにもまずもって御礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。

私はこの会議に教頭時代から参加させていただき、道教委と意見を交わす、すり合わせる、現場の現状を知っていただく、そして道教委の考えを深く知るという貴重な場であることを非常に理解しているつもりでございます。北海道はご存知のとおり広域分散型と言われ、広いだけだったらいいのですけども、教育局が違えば、様々なことが異なっていたり、市町村が違えば格差が見えたりと、そんな状況があるかと思います。道小・道中・道公教はそうした学校の悩みを聞きながら、それを私たちの懐に止めるのではなく、こういった場で共有することで、道小・道中・道公教の勤めであるということを自負しております。それがただ一個の悩みであっても、私どもは、同じように考えているところでございます。

さて、今回のテーマの「対話に基づく受講奨励による新たな研修制度」ですが、始まったばかりですので、各学校ではまだ手探りの状況かと思われます。これは、教員の免許更新制の発展的解消であるととらえるならば、人材不足の解消も含めて、正直失敗するわけにはいかないと私どもは押さえております。ここでしっかりと人材育成をしていかなければならないのですが、始まったばかりですので、課題ということではなく、聞こえてきた話をまずお伝えしてみようと思っています。

一番聞こえてきたことの前に、ポツポツと聞こえてきている良い言葉としては、「やるんだからね」ということを先生方に言いやすくなったことでありまして、それを伝えた上で面談をしていくと、皆さん真面目にやっておりますので、時間がないということが一番大きな声でございます。これまでも面談を行ってきましたが、50 人ぐらい職員のいる学校は、4 月から始めないと夏休みに入れない。それが今までしたので、校長の負担感はなおさら少なくありません。私の学校はそんなに大きくありませんが、やはり時間がかかりました。

面接では、今の学級の様子ですとか指導に関する悩み、アドバイス、今後の目標、人事に関する内容や、家族の状況なども含めて、多岐にわたって職員とお話をさせていただいております。ここに、研修履歴についても話題になってきますと、時間が足りないという状況が、まず聞こえてきたところです。しっかりと聞く、確実に伝えるということが、面談では大切だと思っておりますので、皆様方はどうでしょうかということを参会の皆様方には、お聞きしたいと思います。その他としては、学校職員のニーズをしっかりと把握しているか、それ

が押し付けになっていないか、などという声もありましたけども、これを解消するには、やはり時間をかけてしっかり聞く、そして、伝えるということが重要になってくると思います。

さらには、研修の結果・評価をどうするのかという期末に向けての課題を聞くこともできました。また、以前から言われていますが、へき地・複式の学校などもそうなのですけども、小規模になれば、補欠が組めないという状況もありまして、オンラインも活用するといった便利な手段も出てきているのですけれども、それ以上のことがなかなか難しいということも届いているところです。

それぞれお持ちの課題があろうかと思いますが、私どもは一緒に汗をかくのだという気構えで、今回臨んでおります。何かを要求してやってくださいというわけではございません。一緒に汗をかきながら北海道の教育を少しでも発展できるように支えていこうという気構えでございます。ぜひ知恵を出し合いながら一緒に解決策を探っていきたいと思います。さらには、この制度を活用することで改善された点もあろうかと思いますので、ぜひ皆様方そういうところも交流できればというふうに思っております。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

引き続き、道小の副会長、遠藤より、地区の状況等、簡単ではございますけどもお話しさせていただきたいと思います。

〇北海道小学校長会　遠藤副会長

道小の副会長の遠藤です。よろしくお願いいたします。

まず、令和の日本型学校教育を意識して各学校は経営をしていますけれども、教職員がそれをどう意識しているのかを確かめる意味での対話に基づいた研修推進・推奨は、大きな成果があると感じています。研修意識ですとか、今後どのような教師を目指していくのかという話を、個々と面談できるということは、大きなきっかけづくりとして重要だと感じています。

小樽市では、数年前から、やはり人材育成が重要だということで、校長会が一枚岩のようになって人材研修を行っています。かつては管理職を生むための人材研修として始めたものですが、今までは期限付教諭を対象にした研修や、ミドルリーダー・管理職を目指す人を集めて研修会を行っています。それも黙っていては集まらないので、やはり学校長が働きかけることによって、気持ちが揺れて参加するという形になっています。なかなか良い教頭候補や主幹候補を挙げていくことは厳しい状態ですけれども、そのような働きかけにより、志のある教職員にも火がついていくような状況も現れているので、対話に基づいた研修制度は大変いいことだなと思っています。

ただ、課題もあり、今、各学校は、様々な教育活動の質を高めるために、放課後の時間づくりをすごく工夫をしていると思います。本来業務にしっかり向き合って自己研鑽していく時間を作ろうと苦労をしているのですけども、働き方改革で、なかなか時間が見いだせないのが現場の状況です。今、会長も言われたように面談にも非常に時間がかかりますので、時間がないことが大きな課題です。

それと、研修意欲が高い教職員ほど、研修機会が増えますけれども、そうすると、何か後ろめたさをもってしまい、周りの教職員に迷惑かけてしまう、補欠をまた頼んで申し訳ないような気持ちになると聞いています。大きな学校であるとそれなりに補欠体制が組みやすいですが、小樽市のように小さな学校は増えてくるとやはり補欠が厳しい。小樽の中学校のように２学級規模では、本当に授業を回すことで精一杯という状況の中、なかなか行きたい研修に行かせてくださいと言えない状況であり、人的な配置に余裕をもたせていただくことで取組が、更に成功に繋がるのではないかと感じています。

いずれにしても教職員は非常に真面目ですので、対話によって揺れ動いて資質向上に繋がると私は信じていますので、何とか対話を充実させていきたいと考えています。小樽市のことも含めて発言させていただきました。

○川端学校教育局長

ありがとうございました。森田校長先生と遠藤校長先生からは、時間の確保に関わる課題や、先生方のニーズを踏まえているかですとか、新たな教師の学びの姿では、主体的な姿勢が求められているので、これをどのように生み出していくかということを、色々と仕掛けをされているというようなお話を聞かせていただきました。ありがとうございます。

続きまして、どなたかいかがでしょうか。

○北海道中学校長会　河村事務局次長

北海道中学校校長会事務局次長の河村と申します。現在、岩見沢の東光中学校に勤務をしております。今、お二方からお話がありましたけれども、これまでのコロナ禍の間、先生方は、なかなか学校の外に研修に行けないという実情があって、先生方の研修のイメージの中に、一方的に話を聞くというイメージが根づいてきている感じがしています。私も１学期の中で、先生方と期首面談をしながら、自分のこれからのライフステージだとか、そういうことも含めてお話をするのですけども、「今年は外の空気を吸って来ようね。」というような話をしながら面談をしておりました。

その中で、我々が一番の考えなければいけないのが、先生方の研修観です。どのような研修観をもって外に行くのかというところを、しっかり転換させてあげなければ、なかなかうまく進んで行きません。ここに校長との対話というキーワードが出てくるのだと思っています。ですから、我々も研修観の転換をするために、どのようにアプローチをしているかを、校長として話術も含めて、連携をしていかなくてはいけないと思っています。

先ほど、小学校ではなかなか時間を確保できないという話をしていましたが、中学校はそれなりに時間を取れるのですけども、教科によっては、何とか外に行って、外の空気を吸って来やすい先生がいる中で、授業時数の大きな差があるものですから、教科によってはなかなか外に行くことができない、また特別支援の先生については、ほぼ 29 コマびっしりついて回っているという状況では、なかなか外で研修してくる機会は個人的には難しいかなと思っているのが現状です。

そういう部分をどのようにクリアしていくか、その２点が今の大きな我々のテーマです。

研修観の転換と差をどう埋めていくのかという部分を考えていかなくてはと思っているところです。また学校経営の部分については、後程お話をしたいと思います。以上です。

○川端学校教育局長

ありがとうございました。「研修観の転換」、また、すべての教員の特別支援教育への理解を深めることが求められている中、学校で中核となる特別支援学級の先生の資質を高めていくことも課題ではないか、というお話をいただきました。

道央ブロックの校長先生にお話いただきましたが、道北・道東・道南等の校長先生からもお話しいただけないでしょうか。

○北海道小学校長会　谷口副会長

檜山選出、北海道小学校長会副会長の谷口でございます。

檜山管内の場合は、極小規模の学校が多く、函館市や渡島管内など他の地域とは違う部分があり、この後の各課懇談会の第 3 分科会で、道へき地複式連盟の事務局長からの提言・発言も予定していますが、やはり、極小規模校になると、教頭も学級担任をしなければならず、なかなか補欠体制も組めない。研修に行かせたくても行かせられないことがあります。なので、本来の研修の他、オンデマンド等を活用していく必要があると思っています。

先ほど、河村校長先生からもありましたが、確かに資質能力を向上させていくために研修を受けるのですが、ただ聴いているだけではいけないと私も思っています。

研修内容も若干変更させながら、ブラッシュアップしていくために、ビフォーアフターのような研修の効果が分かる制度を研修等の内容に組み込んでいく必要があると思います。研修を受けたことで、自分が学んだことを記述する、校長に報告するということが必要ではないかと思います。

○川端学校教育局長

ありがとうございました。小規模ならではの難しさや、研修を受けること自体が目的ではなく、子どもへの教育活動にどう結び付けるのか視野を広げたときに、内容の工夫が必要ではないかという話でした。

それでは同じ道南ブロックでも、小規模繋がりでお話いただいても結構です。ご意見いただけないでしょうか。

○北海道小学校長会　吉崎副会長

宗谷管内稚内市立潮見が丘小学校長の吉崎です。へき地繋がりということで発言いたします。

私は、本日この会場に来るまで 6 時間かかっています。宗谷管内の先生方が札幌に研修行くとなると、一泊か二泊となり、どうしようもない距離と時間の問題がつきまとうのだと思っています。

この頃は Zoom やオンデマンド等、勤務地に居ながら研修に参加する機会が増えたことは大変よろしいのですが、それだけでは不十分ではないかと感じています。

昨年度から宗谷地区では、北海道教育大学旭川校の北村先生に来ていただいて、対話に基

づく研修に校長はどのように関わればよいのかを皆で集まって研修を続けています。

面談をする校長も立派な者ばかりとは限りません。面談を終えた新卒の先生が職員室で泣いているという残念な話も聞いております。校長先生が自分の思いで、先生方に研修に行ってきなさいとは言うのですが、先生方は明日の授業や教室をどうするのかといった悩みをもっている。その答えをもたずに対話に基づく受講奨励を行っても駄目だということ。まず、校長である我々がしっかり学ぶこと。学ばないで校長になったときに、このような残念なケースも生まれるということを肝に銘じながら、例えば、先生方が研修してよかった、校長と対話してよかったと思ってもらえるように、まず、我々が頑張ろうと努力しているところです。

○川端学校教育局長

ありがとうございました。新しい育成指標で管理職に求められる資質・能力にファシリテーションというものが加わりました。校長先生方は、自らをどのように高めていくのか、いろいろと学ばれていることと思います。ただいま、校長会でこのような勉強をしたというお話をご紹介いただきました。研修ではなくても校長会でこんな取組をしたいといった話題があればご紹介願います。

○北海道小学校長会　齋藤副会長

道東釧路から参りました齋藤でございます。よろしくお願いいたします。道東も基本的に小規模校が多く、複式校もある状況の中で、小学校では教科担任制が始まるなど、先生方に余裕がある状況ではありません。私の学校でも５・６年生の先生と部活指導の先生がほぼ満度授業をもっています。その先生方を捕まえて研修の時間をつくることは難しい。放課後に終業時間の状況を見て、先生方と合意をしながら時間をいただいて、様々なことを聞きながら面談しています。

先生方は本当に真面目なので、積極的に自分や将来のことについて話をさせて貰っており、そういった意味では、対話はしているつもりですし、釧路ブロックでは、先ほどのように泣いていた話は聞こえてはいません。ただ、教頭が授業に入るような体制の厳しい学校で、研修に行くとなると、先生方は後ろめたい気持ちをもつものと思っております。オンデマンドなど様々な形の研修や資料を先生方に紹介しながら、なんとか時間をつくり出せないものかと考えているところです。

○川端学校教育局長

ありがとうございました。新採用の先生が泣いていた、後ろめたい気持ちで研修に行くなどのお話が出ていますが、教員育成の考え方の中には、心理的安全性の確保っていうのがありまして、もしかしたら、それが十分出ていない状況があるのかなと思いました。

今年度、教育局の義務教育指導監が学校経営訪問する際の視点の一つとして、この心理的安全性の確保というのを、大事にしておりますので、関わっております西口指導監から一言お話いただきたいと思います。

○西口教育指導監

西口です。よろしくお願いします。

「心理的安全性の確保」は、全ての学校において求められている重要課題です。

今年５月に、各教育局の義務教育指導監にも、心理的安全性について説明する時間を設定し、心理的安全性を重視する背景や定義、測定する方法等について共有しました。

先ほど、学校長と対話していた教員が泣いていたらしいというエピソードが紹介されました。感動の涙であれば学校長の対応として賞賛されますが、もしも悲嘆の涙であれば、心理的安全性の確保が強く求められることになります。

心理的安全性の重要性については、中教審の答申にも明記されていますが、その意味については、昨年 12 月に改訂された「生徒指導提要」に、心理的安全性の本質を突いた、簡潔かつ的確な言葉が示されています。生徒指導提要の 127 ページには、「組織が真に機能するには、『無知、心配性、迷惑と思われるかもしれない発言をしても、この組織なら大丈夫だ』と思える、発言をすることへの安心感をもてる状態（心理的安全性）をつくり出すことが不可欠」と明記されているのです。

日常的に発言することに対して安心感をもつことができ、学校長からの質問に対してどのように回答しても評価が下がることはないと感じられる状態といえます。例えば、教職員が意見や提案を伝えると、「本当によく伝えてくれたね。さらに、この部分を加えるとあなたの強みの発揮や、子供たちの変容につながるね。」などの返答などにより、管理職が教職員の長所や強みに着目して、その可能性に気付かせ、期待をよせる言葉がけや働きかけを行うことが大変重要になってきます。

心理的安全性は、本年３月に改訂された「北海道における教員育成指標」の中の「目指す管理職像」の全てのキャリアステージにおいて、冒頭に「心理的安全性の下～」と示され、人材育成の重要なキーワードになっています。

北海道では、全ての学校において心理的安全性の確保を土台としながら、日常的な教職員への価値付けや勇気付け等を行うことによって「働きがい」が高まっていく、その取組の積み重ねが、子供たちへの指導・支援の充実にも必ずつながっていくと捉えていただきたいと考えています。

○川端学校教育局長

改めて心理的安全性という基本について、皆さんと確認したいと思いお話をいただきました。そろそろ前半が終わりそうなので、野田教頭先生に一言お願いします。

○北海道公立学校教頭会　野田会長

こんにちは。北海道公立学校教頭会で会長を仰せつかっております、札幌市立北都中学校の野田でございます。

本日のテーマは、教員の新たな研修制度による教員の資質向上と学校経営についてということで、改めて対話に基づく受講奨励に関するガイドラインを読み直してみたところ、これによって教師が主体的に専門性などを高めて、令和の日本型学校教育を担う先生方の新たな学びの姿が求められているものと感じました。

子ども達に言っていることと同じで、先生方の新たな学びとして「主体的な教師の学び」、「個別最適な教師の学び」、「協働的な教師の学び」といったことの実現が求められているのだと思っています。

教頭は職員室の担任に当たりますので、まず心理的安全性の確保も含めた職員室の風土を築き上げることが、教頭の大きな役割であると感じております。また研修については、先生方には本当に時間がない中で行くことになるので、行ってもらうのではなく、先生方自らが行きたいと思えるような状況をつくり上げていくことも教頭の役割ではないかと考えています。そのため、研修については、北海道全体の特徴やそれぞれの地域の特色、実情を踏まえた多様な研修プログラムをこれまで以上に用意していただき、より一層先生方が学びに行きたくなるような機会を与えていただけると助かります。特に先ほどもお話がありましたが、北海道の広域性考えるとオンラインの活用も含め、また、参集する環境づくりも含めて、十分に手を入れていただければ、先生方も参加してよかった、また次に行こう、そして日々の授業や生徒指導、校務分掌等の業務に生きる研修になるのではないかと考えています。

また、研修履歴を活用し校長先生を中心に対話を通して受講奨励を行うことは、まさに人材育成の本丸の部分であると感じています。そうした時に、校長と教頭は生徒指導と同様に先生方を十分に理解することが不可欠です。人材育成の観点からも一人一人の背景も知ることが重要ではないかと思います。そうすると、定期的な対話だけではなく、教頭であれば先生方の日常の職務の観察等を通し、その先生にどのような資質能力が必要なのか、その先生方の強み弱みは何かをしっかりと見取りながら、校長と共有することで、この制度の精度が一層高まっていくものと思っております。

道教委の皆さんにおかれましては、管理職に人材育成能力を高める研修や機会を与えていただく、そのようなサポートしていただけると、制度が一層機能するものと思っております。

〇川端学校教育局長

ありがとうございました。それでは、後半に入ります。冒頭、学校経営の視点を含めながら発言いただくようお願いしました。実は、前半の皆様のご発言の中で、教員育成のキーワードがいくつか出てきています。主体性の尊重、心理的安全性の確保、それから、個別最適な学び等がありました。

前半のどちらかというと、外に出て行く研修といいますか、求める研修が中心であったと思いますが、実は教員育成の考え方の中に「同僚性のもとでの学び合う」というものがありまして「理論と実践の往還」という言葉もあります。そういった学校の取組を紹介いただけないでしょうか。

〇北海道中学校長会　盛永副会長

北海道中学校長会副会長の盛永と申します。よろしくお願いいたします。

私は平成の終わりから、学校ぐるみで協働的な学びについて推進的に取り組み、それが次

第に成果として現れて、その結果として道の教育実践表彰や文部科学大臣表彰をいただきました。まさに、研修によって学校が変わりました。

非常に荒れた学校でしたけれども、生徒たちの授業に対する態度が全く変わり、学力右肩上がりで上がりました。そういったことから表彰を受けました。実はその時にやったことは、本年6月10日に日本教育会の講演で文化庁次長の合田哲雄先生がお話しになったことと同じで「未来を見据えて教育を考えていく必要があり、それはこれからますます大事になるだろう」という言葉です。私が取り組んだこととまさに同じで、今までと全く違うことに取り組む際に、なぜそうなのかの部分を先生方にきちんと理解してもらわないと前に進めないということで、これからの未来こうなっていきそうだと、或いはこういうことが問われているということを先生方と時間をかけて共通理解し、さらに、研修については何とかお金を工面して、先生方を2人ぐらいずつ道外に派遣し、実際に見て勉強してもらい、それを還元してもらい先生方に広めていくという形で、5年間校長をさせてもらいました。本当に貴重な経験をさせていただいたと思っております。

先ほど、同僚性についてお話がありましたが、全く0から新しいものに取り組むということで、本当に全員が0で、私も0でした。その中で一緒に勉強して、取り組んでいく中で生徒が変わっていき、それを先生方も実感しながら、一歩一歩前進を続けた結果がそのようになりました。やはり研修の重要性、同僚性の重要性、同じ立場、同じ目線で管理職も含めた教員との対話が深められる、そういう部分で研修はすごく大事なのだと改めて感じた経験をさせていただきました。

先ほどの合田先生の講演でCSTIの政策パッケージについて触れられたのですが、私は初めて知って、すごいなと思って全部読ませてもらって、先生方にもお話をさせていただきました。これからの時代は、未来を見据えた中で未来を生きる子ども達に何ができるのか、そのためには、子ども達が未来の社会に対応できる教育を行っていく必要があり、だから研修が必要なのだということを共通理解できれば、先生方もより積極的に様々な研修や勉強会に参加できると思います。

今年は異動で学校が変わりましたが、少しずつ対話を通して、先生方に自分たちの仕事が子ども達の未来に関わる大事な職業なのだということを改めて意識してもらって、それを学校経営につなげ、子ども達の成長に繋げていきたいなと思って進めているところです。

○川端学校教育局長

ありがとうございました。なぜ学ばなければいけないのかということを、丁寧に先生方に伝えて進んで行ったというお話でした。他にいかがでしょうか。

○北海道中学校長会　河村事務局次長

先ほどは学校経営についてお話しましたので、話題提供をさせていただきます。

今、盛永先生に大きな学校経営のお話をしていただきましたが、私は少し小さなお話を。結局、先生方は子ども達のために、すごく勉強をしたいっていう思いをもっているのです。しかし、それを全体の場でうまく発揮できないということがあると思います。ですから、

我々が先生方のレベルアップを図ることで、学校力のレベルアップを図る、そのような学校経営を私達校長は求められています。その一つの手法が盛永校長先生のお話だったのかなと思っています。

日常的なことを考えると、やはり学校の校内研修を我々がどのような方向にもって行き、先生方をどのような校内研修に招き入れるのかが一番大事な仕事であると思っています。

北海道は若い先生と 50 歳代の先生の二極化している学校と、学校によっては若い人が入ってなくて年齢層の高い学校もあると思います。それぞれ様々な課題がありますが、校内研修で今いる人達で何ができるのか、見通しをもって進めていくことが、研修観の転換に繋がっていくものと思っています。

先ほど野田教頭会長が言われたように、子どもが学んでいることと同じような学びを先生方にもしっかりとしてもらう仕掛けを、私たちは勉強していかなくてはいけないと思います。

〇川端学校教育局長

ありがとうございました。新たな研修制度をきっかけに、もう一度、校内研修とはどのようにあるべきかを、見直していったという話だったと思います。

同じように、外向きの研修だけではなく、校内研修を工夫した取組がありましたらお話いただけますでしょうか。それにこだわらなくても結構ですが、いかがでしょうか。

〇北海道小学校長会　森田会長

小学校の算数や理科や国語等の授業研究というものは、研究部が音頭を取って、今年は誰が授業をするのか、それとも全員でやるのか、そのように従前からやってきたと思います。

それは変わらないのですが、私は前任校から今の学校にかけて、先生方に、自分で工夫するだけの授業は一旦やめて、基礎基本を専門家に習い、その専門家に指導案を書いてもらうぐらいの気持ちで、本質的なものをもう一度学んでみようと、この 3～4 年 2 校に跨ってやらせてもらっています。

今年は、北海道教育大学の渋谷教授に来ていただき、総合の授業のつくり方、生活科の授業のつくり方を丁寧に説明してもらい、全員の授業を見ていただきながら、学習の本質と先生方も負担をできるだけ減らすことを考えながら、専門家に習う数年間をやろうとしています。

5 年後までに国語・算数・理科・社会・英語・体育と全部の教科をやって、公開研ができればいいくらいのゆったりとした感覚の中で、校内研修・研究を捉えながら進めています。

〇北海道中学校長会　三浦事務局長

北海道中学校長会事務局長の三浦と申します。中学校の立場における校内研修についてお話をさせていただきます。

中学校でも校内研修が活発な学校はあると思いますが、小学校と比べると全校研修は少ないのではないかと思います。一つの授業を見て議論をするときには、教科の専門性というものが大きな壁となってしまうからです。ローテーションを組みながら今年度は国語だ、数

学だとかやってみても、どうしても教科の専門性が話の壁になってしまい、なかなか次に進んでいかない経験をしておりました。

しかし、今では自分も校長としてテーマを工夫すればよいと思うようになり、生徒の主体性を育むために、理科なら理科でこうするとか、国語や英語はこうするとか、同じように各教科の年間の研修テーマを設定して授業を見ていくと、教科の専門性も生徒の主体性も、共通の大きなものがあれば、やっていけるのではないかと感じています。

例えば、理科の教科内で、理科の授業を皆で見ようとした時に、若い先生が授業をすることが多いと思いますが、複数のベテランの先生がアドバイザーになって授業をつくる。授業者だけが当事者意識をもつのではなく、教科として当事者意識をもってやることが大事ではないかと思います。以前中学校でやって効果があったと思っております。

○川端学校教育局長

ありがとうございました。お話が少し研修にシフトしていますが、終わりの時間も近づいてまいりましたので、まだご発言されていない校長先生で、新たな研修制度全般を通して、お考えなっていることですとか、取り組んでみようと思っていることですとか、何かお話いただけないでしょうか。

○北海道小学校長会　松本副会長

空知ブロック岩見沢小学校の松本です。隣にいる、河村校長が先ほど発言しましたけれども、東光中学校と同じ校区の岩見沢小学校と東小が一体になって、9 年間見通した中で児童生徒の育成はもちろん、教職員の交流、そして、予算執行に結び付く研修ということで、取り組んでいるところです。

自分の学校の教職員の話をしますと、46 歳が一番若い教諭です。あとは全員 50 代、60 代。私は退職校長ですが、上から 7 番目の年齢ということで、空知全体がそうですが、45 歳以上が 73%～74%ぐらいの年齢構成となっています。その中で、教職員がお互いに同僚性を発揮しながら、切磋琢磨して授業力を中心に教師力向上を図っていく。それを活性化するところで本当に苦慮しています。中学校や隣の学校と一緒になって進めていく中で、教職員がお互いに切磋琢磨する環境を今つくっているところです。

やはり校内、そして小・中で授業をお互いに見て、授業について語り合って、授業を通して子どもたちを育てていく。そこを中心に取り組んでいくことが授業であると考えているところです。

○川端学校教育局長

ありがとうございます。学校力のことをお伺いしようと思っていたところ、図らずも近いお話をしていただきました。日常実践に直結する校内研修などを中学校区で取り組んでいるということで、単体の学校の取組とはまた違った広がりが生まれているのかなと思います。今回の新たな研修制度が始まって、学校力のこの取組と繋げられると思われたようなことあればご紹介ください。

○北海道小学校長会　松本副会長

中学校に理科の教員が加配になって、小学校の高学年の理科の授業を行っています。その中で小学校の学習規律と中学校の学習規律の違いを感じます。実際に中学校の教員が小学校に来て児童を指導する中で、小学校ではこんなことに気を付けながらやっているのだっていうことを肌で感じながら、それを中学校にもち帰る。そして中学校の取組を小学校の高学年に直接的に指導する。それを学年の先生方が見て、こういうイメージをもって高学年指導していけば中学校に繋がっていくのだと、教員の交流を通して指導に統一感が生まれたり、子ども自身も中学校を見据えたイメージをもって、5，6 年生の時間を過ごすというところでは、学校力の小中連携の成果が少しずつではありますけれども、出てきていると感じております。

○川端学校教育局長

ありがとうございました。学校力の取組が先生方の学びのきっかけになっていくとよいなと思い、お話を聞かせていただきました。最後は中学校校長会の森田校長先生にお願いする予定ですが、お時間があるので、その前にもうお１人いかがでしょうか。

○北海道小学校長会　遠藤副会長

私がおります小樽市立稲穂小学校も学校力の指定を受けて、いろいろ取り組んでいますが、学校力というものを学校総括的に改善していくという意味では、事務職も共同事務実施で、いろいろと研鑽し合ったりと、できることを模索しているところです。

今年度、現在の学校に赴任して、小中一貫や連携などいろいろ言われてきましたので、先生方に、子ども達はこの地域で育つのだから、この地域で育つ子ども達のために、小中の先生方は何ができるのかという視点で検討してほしいということを伝えました。

そうすると、今まで一部の限られた教職員だけが部会に入っていたのですが、全教職員がいろいろな部会に所属するようになり、今では小中の先生方で授業の中で何ができるのかを模索しているところです。

中学校の理科の教諭が本校に来て、中学校とは違う文化に触れて逆に授業力が上がったということもありました。やはり中学校では少し乱暴だった自分が、それでは小学校では通用しないと実感して、非常に自分の授業が変わりましたと言っていますし、なかなか中学校ではＩＣＴタブレットを使ってなかったのですが、小学校でここまでやっているのなら使わざるをえないと使い始めたという事例もあります。

また英語や算数・数学で専科の部分も、いろいろな意味で小・中の多少文化に違いはあっても、この辺を乗り越えてみんなで子ども達の資質･能力の高めるために今取り組んでいるところです。

小中一貫で言うと 9 年間この地域で育つ子ども達という意味では、学校力をしているおかげで、いろいろな部分で前進をはかることができていると感じているところです。

○川端学校教育局長

ありがとうございました。新たな研修制度ではありますが、これまでの取組を生かしてやっていけるところもあるなということを二人の校長先生のお話から感じました。

それでは、最後に森田校長先生ご発言をお願いいたします。

○北海道中学校長会　森田会長

北海道中学校長会長を務めております森田と申します。本日は公務ご多忙の中を、倉本教育長を始め多数の幹部の皆様にお越しいただき、新たな研修制度による教育の質の向上と学校経営という、学校教育の充実を図るに当たって避けて通ることができない、校長が先頭になって頑張っていかなければならないテーマを設定いただき、また、このような時間を設けていただきましたことに、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

私も本校の先生方や、先日、上川管内の校長会があった時に校長先生方にも大事にしてくださいと言ったことは、やはり受講奨励という言葉でした、この受講奨励という言葉は、先生方はもしかすると教育委員会等が実施する研修講座を受講するイメージをおもちかもしれませんが、先生方が指導方法に関わる参考書を読むことや、校内研修等も受講です。

私は旭川市の学校に勤めていますが、本年度は、旭川市で全道中学校理科教育研究大会と全道数学教育研究大会が開催され、その授業検討などについて、先ほど西口教育指導監のお話にもありました心理的安全性ということで、先生方が「校長先生、何回行ってもいいのですか。」と言うので「どうぞ行ってください。」と言っていますし、本校には複数の教科の先生方がいるので「先生方、何かあるみたいだから一緒に行きなさい。」と伝えると、数学の先生は数学の授業案検討に、理科の先生は授業案検討に複数派遣するなどしながら、勤めている学校の校内研修だけではなく、いろいろな教育研究団体が実施している研修についても、主体的に受講するということで、先生方が頑張ってくれているところです。

それともう一つ、外に出て行く研修だけでなく、校内研修以外にも、特に特別支援教育に関わって本年度から、全ての先生方が研修を受けるということを大事にしたいという思いから、旭川市教育委員会から特別支援担当の指導主事に来ていただいて、夏休み明けの職員会議にぶつけて、一緒に研修を受けました。その中で自立活動をどうやっていくのかなど、日頃から各学校にいる困り感をもっている生徒への対応で苦労しているところを研修を通して学ぼうと考えております。

また、校内研修に関しては、本年度、本校では新たな授業イメージをつくっていく、そんなＩＣＴを活用しながらつくっていく研修を先生方と取り組んでいこうということで、主体的な学習者を育む授業づくりを進めていくと、ＩＣＴというキーワードが入りますので、年配の先生も、若い先生も、そしていろいろな教科を含めて研修ができまして、特に数学ではこのように活用していますよ、理科はこのように活用していますよ、美術科では…といった形で、毎月交流しながら取り組みを進めています。

やはり、取っ掛かりとなるところは、先ほど盛永副会長も触れておりましたが、それはエビデンスでして、どうして主体的な学習者が今後必要で、そのような授業に変わっていかなくてはならないのかということ。先生方に丁寧に説明をすると「校長先生そうですね。」というように、校内研修の方も少しずつ盛んになり、こういうことが学校経営の活性化にも繋がっていくのではないかと思っております。

また、先ほど北海道教員育成指標のお話が出ておりましたが、シートを活用した10年経験者研修や初任段階研修に参加する先生方は、育成指標をもとに自分のどの資質能力の項目が低いのか不得意なのかというところが、非常に細かく分析できるような素晴らしいシードだと思います。ただ、それを全部の先生方にいきなり受講奨励の時にやると、やはりハレーションがあるのかなと思いながら、各研修に出ていく先生方のシートを見ると、これ、全部の先生にやりたいなと思いながら、自分自身も勉強になっているところです。

そんな中で、私は昨年度、この本道の新しい育成指標の委員を務めさせていただき、やはり国の指針を踏まえながらも、本道の指標としての独自性について、委員がこだわったところがありました。そこが教育的愛情を最上位に示すこと、そして子ども理解力については生徒指導とは別にするなど、子どもを主体とした学校教育を実現するための必要な資質能力を強調しているということで、今回の先生方の育成指標を作成してくださっておりますので、ぜひ改定に当たっての「思い」や「ねらい」を今後の学校現場の受講奨励に生かしてまいりたいと思っておりますし、本年度、道小・道中両校長会におきまして、令和5年度の活動の重点として、小学校会の森田校長先生は、特別活動は子どもを主語にということで、大々的に出してくださっております。

中学校校長会は子どもを主語とした教育の実現ということで、全道の校長先生方に発信させていただいております。このように本当に両校長会は、北海道教育委員会の皆様から多くのことを学びながら、ベクトルを揃えながら、是非、北海道教育の充実のために頑張ってまいりたいと思っておりますので、今後ともご指導、どうぞよろしくお願いいたします。

○川端学校教育局長

森田校長先生ありがとうございました。皆様のご協力により、充実した意見交換になったと思います。ご発言ができなかった方々はこの後の各課懇談会で、是非お話をして戻られますよう、よろしくお願いいたします。それでは事務局にマイクをお返しします。

○遠藤義務教育課長

それでは、この会議の結びに当たりまして、倉本教育長からご挨拶申し上げます。

○倉本教育長

本日はありがとうございました。閉会に当たりまして一言ご挨拶をさせていただきます。本日は限られた時間でありましたが、研修制度というテーマについて、ご意見、報告をいただきました。昨年はＩＣＴなどをテーマに掲げて、現状や課題等を様々なことお聞きしたと記憶しております。

私もこの間、いくつかの学校を訪問し、授業の状況などを拝見させていただく機会がありましたが、ＩＣＴ教育などを垣間見る機会は幾つかあり、それを足がかりに、色々なことを自分なりに想像することはしてきましたが、先生たちの研修を拝見する機会は非常に少ないことから、本日は限られた時間の中で皆さんから、学校における状況や課題、或いは校長先生・教頭先生が率先して環境づくりをされていることについてお話を伺い、やはり、これからの時代の中で、教員自身が学び続けていくために、その環境づくりを如何にするのかと

いうことが、本当に大事な課題であると改めての実感をしたところであります。

先ほど、研修で学校変わるという話もございましたが、先生方一人一人が学んでいきたいと思っていながらも、忙しい中で、十分にそれができていない現状もあると思います。ただそのような学び続ける姿勢自体が、よりよい授業に繋がり、学校自体の活性化にも繋がり、当然のことながら、子どもたちの学びにも非常に大きなプラスになるということを、本日、改めて感じたところであります。

すぐには解決できないことも多々あるかと思いますが、私たち教育委員会としても、本日いただいたご意見をもとに、我々に何ができるか、改めて考えていきたいと思いますし、また、校長会、教頭会の皆様と力を合わせて、一つ一つ取り組んでいきたいと思っております。

また今後とも、様々な機会があると思いますが、引き続き、意見交換をさせていただきながら、施策の改善を不断に続けていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

結びになりますが、今年は本当に例年になく暑い日が続いています。熱中症、それから感染症も含め、ぜひ皆様方の健康にもご留意いただき、ますますご活躍いただきますことを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

○遠藤義務教育課長

以上で終了とさせていただきます。本日はありがとうございました。